

謹賀新年



令和5年の年頭にあたって

令和5年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。旧年中は、当社事業につき、格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、昨年、新型コロナウイルス感染症による、まん延防止等重点措置が3月に解除されて以降、行動制限や水際対策の緩和による景気回復が期待されたものの、ウクライナ情勢や半導体等の原材料不足、円安進行による資源価格高騰などにより景気悪化が懸念される状況の中、信用金庫業界においては地域経済の持続的成長ならびに地域創生の一環として、創業・事業再生支援、ビジネスマッチング・人材マッチング、DXやSDGs・GXへの取組促進など、様々な取引先支援が行われました。

一方、当社では、昨年3月に設立40周年を迎え、信用金庫業界の情報サービス会社として、時代に即したシステム・サービスに向けた各種業務改善・再構築を行い既存サービスの安定稼働・利用拡大を図るとと

もに、信用金庫向けICT情報発信の一環として、「しんきんコミュニケーションフェア」を4年ぶりに開催し、10年先の金融DXを見据え、信用金庫の強みであるFace to Faceを活かす営業力強化、非対面チャネルによる顧客接点創出、AI技術等を利用した近未来の営業店の在り方等をテーマに、最新の各種ソリューションを展示・実演しました。

信金業務サポート事業では、自動機監視サービスにおいてオペレータ対応品質の更なる向上と効率化に向け、音声認識AI技術を駆使し、コストパフォーマンスに優れた最新のコールセンターシステムの構築を進めるとともに、手形・小切手発行サービスにおける電子交換所へのシステム対応、継続的顧客管理や未利用口座管理手数料引落に係わるDM作成、INS回線終息に伴う各種システムの光回線への切替対応など、環境変化や金庫ニーズに合わせた高品質なシステム・サービスの提供や既存サービス

への機能拡充について、精力的に取り組んでまいりました。また、新しんきん為替集中サービスにおいては、令和4年12月末現在で70金庫が移行完了し、今年度末までには全国の約1/3の信用金庫（84金庫）での稼働を予定しており、スケールメリットと大幅な自動化によるコスト低減に向け取り組んでまいりました。

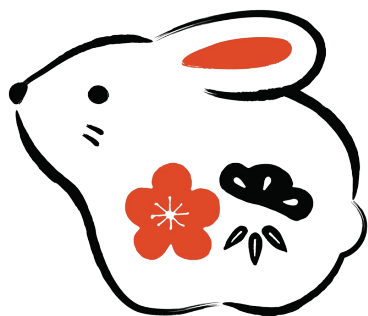
決済関連事業では、当社独自の決済スキームであるMMK窓口収納サービスについて、スマートフォンによる収納が可能なPAYSLE・マイペイメントの推進、PayPay・LINE Pay等の決済事業者との連携による収納件数増により、前年度と比較して大幅に増加し、年度末予測では約6.5%増の約3,100万件の取り扱いとなり、継続的収益確保、より一層の安定経営に寄与しました。

本年の取り組みについては、新しんきん為替集中サービスにおける更なる自動化・効率化に向けた機能改善や自営信用金庫の加入準備を進めるとともに、ライフサイクルによるシステム・サービスの更改に合わせ、DX時代に向けた情報セキュリティやインシデント対策の強化を図ってまいります。また、株主信用金庫の利便性向上を図るSISポータルサイト（DXコミュニケーションツール）を構築し、業務連絡・還元資料授受の一元化や当社システム・サービスの稼働状況についてリアルタイム確認の実現など、株主信用金庫を取り巻く環境

変化に合わせ、急速に進んでいるDXにも対応するとともに、株主信用金庫と歩調を合わせたSDGsの推進を図ってまいります。決済関連事業では、ことら（少額決済インフラ）など、多様化する決済サービスの動向やニーズに注視し、引き続きMMK設置店舗の維持管理に努め、ビジネスフェアや金融国際情報技術展（FIT東京）などへ積極的に出展し、収納件数拡大を図るとともに、引き続き信用金庫業界への決済資金の誘導に努めてまいります。

当社は、40年に亘る『株主信用金庫・関連団体・関連各位のご支援・ご尽力に深く感謝する』を念頭に、信用金庫の業務委託先として社会環境に柔軟に対応するとともに、高品質かつスケールメリットを活かした安価なサービスの提供および安定稼働に努めてまいります。また、培ってきた人的・物的・知的財産の更なる利活用を図り、当社の強みを活かしつつ、信用金庫に寄り添ったシステム・サービスの提供、ならびにサポート体制を構築し、次の50周年を見据え、信用金庫業界の更なる発展のために粉骨砕身してまいるとともに、従来にも増し株主信用金庫の期待に応えてまいり所存でありますので、引き続き、倍旧のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、この1年が株主信用金庫・関連団体・関連各位ならびに役職員の皆様にとりまして、実りある良い年となりますように、心からお祈り申しあげ、年頭のご挨拶とさせていただきます。



代表取締役会長 **矢澤孝太郎**
(亀有信用金庫 理事長)

代表取締役社長 **飯吉 真**

SISポータルサイト構築について

SISでは、信用金庫・SIS間の新たなDXコミュニケーションツールとして、ポータルサイトの構築を進めており、信用金庫ごとの地域ニュースの提供をはじめ、当社システム・サービスの稼働状況の一元管理など、タイムリーな情報提供を実現いたします。当社からの発信文書や事務連絡、各種事務取扱要領などの閲覧・ダウンロードを可能とし、ペーパーレス化によりSDGsの推進にも貢献いたします。お問合せについても、新たにチャット機能を採用し、返信までの時間短縮、既読管理による不着の不安を解消します。SISでは引き続きITを最大限に活用し、更なるサービス向上に努めてまいります。

1. 画面イメージ（予定）



2. メニュー構成（予定）

①News	自金庫の所在地に応じた最新の地域ニュースを閲覧
②業務連絡	発信文書、事務連絡、イベント情報等を閲覧、ダウンロードも可能
③システム稼働状況	ご利用システム・サービスの稼働状況を確認、チャットによる問合せも可能
④サービス一覧	当社サービスの資料を閲覧、ダウンロード、チャットによる問合せも可能
⑤説明書・動画	各種事務取扱要領を閲覧、ダウンロードも可能、ユーザー会等の動画を視聴
⑥ダウン・アップロード	請求書添付明細など大容量のデータを送受信

3. 提供時期・利用環境

提供時期：2023年9月予定

利用回線：インターネット回線（SSL/TLS暗号化通信・端末認証を実装）

利用端末：SIS貸与iPad、パソコン、スマートフォン等

第20回 しんきんコミュニケーションフェア2022 4年ぶりに開催

10月26日、27日の2日にわたり「しんきんコミュニケーションフェア2022」を東京流通センターにて開催しました。コロナ禍において4年ぶりの開催となりましたが、感染症対策をしっかりと行ったうえで、総勢1,970名の方にご来場いただき、好評のうちに終了いたしました。



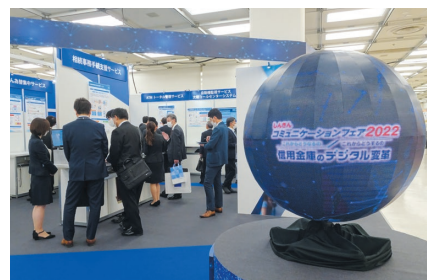
■特別講演

スポーツジャーナリストの増田明美さんをお招きし「耳を傾けて、心を傾けて」と題して、独自の情報収集の秘訣とマラソン世界の魅力について、ご講演いただきました。

これからどうなるの

これからどうするの

信用金庫のデジタル変革



フェア会場の様子

第21回 自動機監視サービス ユーザー会 オンライン開催

本ユーザー会は、コロナ禍により今回もオンラインで12月2日に開催し、ご好評を賜りました。

■講演

沖電気工業(株) 執行役員 藤原雄彦氏
「社会課題を解決するイノベーションの取り組み」

■状況報告・説明

- 自動機監視サービスの現況
- ATM障害対策、年末年始対応のお願い
- ATM接続回線の光回線対応状況
- 新コールセンターシステムのご紹介

■出席者 62金庫7団体138名



沖電気工業(株) 藤原氏ご講演

今後のスケジュールについて

今後の主なイベント情報についてお知らせいたします。なお、各イベントの詳細な内容につきましては、別途ご案内文書等をご確認ください。

日程	イベント名	会場
1月20日(金)	令和4年度 しんきん情報研究会	東京コンファレンスセンター品川
3月中旬	第9回 リスク管理態勢説明会	書面開催
10月19日(木)	第11回 業務ソフト・情報システム展示会 <small>じっくり見て聞いて触れてなんでも質問してください</small>	品川フロントビル会議室

※上記日程ならびに開催形式については、新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、やむなく変更になる場合もございます。

SIS ニュース No.64 2023年1月4日発行

株式会社 しんきん情報サービス
<https://www.shinkin-sis.co.jp>
 〒108-0075 東京都港区港南1-8-27
 日新ビル12階
 総務部 Tel.03-5462-7081



Pマーク更新のお知らせ

当社は、この度一般財団法人 日本情報経済社会推進協会 (JIPDEC) が認定する「プライバシーマーク」を更新いたしました。

